

志布志麓



歴史



志布志麓の魅力を全6回（隔月）にわたりお伝えします。
前川河口近くの街路の柳や、ぽつぽつ咲き始めた枝垂れ梅を見ながら散歩をしている方が多くなりました。
春を迎えると、五穀豊穰を願う神社のまつりやお釈迦さまを祝う行事が行われます。
今回は宝満寺跡から対岸の内城跡を見ながら右回りに散歩です。



志布志地名発祥の地と小淵橋



宝満寺跡と観音堂



市渡祭の様子



若宮神社



最終回 人々を繋ぐまつり
〜志布志麓のさんぽ路〜

宝満寺は奈良時代、聖武天皇の発願によって創建された勅願寺です。境内の入り口には何人も馬から降りなければならぬ「下馬札」の石柱があり、高い格式がうかがえます。約六百年前の犬之馬場の合戦で戦った隈田原兄弟の仁王像が守護しています。鯉が泳ぐ池から見上げる岩に根差した大きな楠は、パワースポットとして知られています。ほかに石橋や綱掛観音も見どころです。本堂の観音堂は、「戊の日」

に安産祈願の方々が多く訪れます。前川縁を上流に進むと、大きな楠と「志布志地名発祥の地」の札が小淵橋の袂にあり、天智天皇の腰掛石の伝説があります。橋を渡ると県道三号線。右に曲がると清水氏庭園、大性院、左に廻ると小淵馬場、若宮馬場、御飯屋跡（現志布志小学校）、内城跡へ。途中、阿多氏庭園、福山氏庭園と続き、武家門や九品寺跡（尼寺）もあります。麓の若宮神社は、和銅年間の創建と伝えられ、約千二百年前に安楽山宮神社に合祀されています。現在の神殿は約三百年前に再建された棟札の記録が

あり、志布志地方で最も古い木造建造物です。衣冠束帯の阿吽随神像は県内でも少なく貴重なものです。今年の2月19日には、安楽山宮神社から若宮神社まで検非違使役の少年に警護されて神様がお見えになる「市渡祭」があります。「志布志麓 歴史さんぽ」では、地域の皆様に教わることでばかりでした。市埋蔵文化財センター、市立図書館、鹿児島県立図書館、鹿児島歴史資料センター黎明館で資料を閲覧させていただき、ありがとうございました。おわり
写真・文：東郷恵子（志布志麓住人、落語大好き）

■問い合わせ先：教育委員会 生涯学習課 文化財管理室 指定文化財係 TEL：472-1111（内線 343）